140.

617.7

種々ナル脊椎動物眼球ニ於ケル脂肪及ビ類脂肪 殊ニ『コレステリンエステル』ノ發現ニ就テ 個體發生學的如ニ種屬發生學的研究

第 6 報

2,3 魚 類 ノ 眼 球 ニ 就 テ

縣立神戶病院病理科(主任中院博士)

森 十 司

[昭和8年12月2日受稿]

Aus dem Pathologischen Iustitüt des Provinzial-Pospitals zu Kabe (Direktor: Prof. Dr. Nakanoin).

Ontogenetische und phylogenetische Forschung über das vorkommen von Fett und Lipoid, besonders von Cholesterinester im Bulbus verschiedener Wirbeltiere.

(VI. Mitteilung.)

Über den Bulbus von Fische.

Von

Juji Mori.

Eingegangen am 2. Dezember 1933.

Der Verfasser hat, zum Schluss seiner Arbeit, über die Fett- und Lipoid-Substanz des Bulbus von einigen Arten der Selachier und Teleostier erforscht.

Im allgemeinen erscheint bei den Fischen die Lipoid-Substanz hauptsächlich in der Retina, im anderen Augengewebe nur wenig. Die alle Färbungs-Reactionen von Lipoidsubstanzen sind im Pigmentepithel und in der Sehzellenschicht auffallend bemerkbar, und auch die doppelbrechende Lipoid wird in jeder Schicht der Retina sehr deutlich nachweisen.

Die vor allem merkwürdigste Erscheinung bei den Fischen-Netzhaut ist diejenige der Oeltropfen im Pigmentepithel von Cyprinus und Carassius. Das pigmentepithel dieser Fische wird von den zahlreichen grössern und Kleineren Oelkugeln erfüllt, die durch Sudan III sehr deutlich gelblichrot, durch Nilblau tiefblau gefärbt werden. Das Oelkulgelchen drängt in der Sehzellenschicht hinein entlang den Pigmentfortsatz, als ob die von dem Pigmentepithel abgesonderte Substanz in der Sehzellen eingeführt werden. (Kurze Inhaltsangabe.)

第1章 緒 論

兩棲類中殊ニ蛙及ビ蝦蟆等ハ從來屢々研究 資料トシテ吾人ノ机上ニ持來サルルコト多カ リシモ魚類ハ其ノ之ヲ得ルコト甚ダ易キニ拘 ハラズ研究材料トシテ利用サルルコト比較的 尠キニ似タリ,從テ一般比較解剖學的研究以 外特種ノ問題ニツキテノ檢索ハ殆ド之ヲ見ザ ルガ如シ,就中余ノ研究事項タル眼球一般ニ現ルル類脂肪ノ研究ノ如キ途ニ之ヲ檢索スルヲ得ズ余ハ余ノ研究ノ最後ノ道程トシテ此種動物ニツキテモ亦檢索ヲ試ミルノ要ヲ認メ,2,3種類ニツキ之ヲ遂行セリ.以下其ノ梗概ヲ述ベントス.

第2章 1,2/文獻

上述セル如ク魚類眼球ノ脂肪及ビ類脂肪=關ス ル研究ハ殆ド之ヲ檢索スルヲ得ザリシモ唯一ノ文 献トシテ松浦博士ノ鮒ノ網膜色素上皮細胞=於ケ ル油球ノ研究ヲ得タリ、併シ氏ノ研究ハ主トシテ 蛙眼網膜研究ノ副産物トシテノ報告ニ過ギズシテ 様メテ簡單ナル試載ニ止ル.

第 3 章 研究材料及ビ某ノ方法

余ハ主トシテ瀬戸内海及ビ淡水産ノ魚類ニシテ 平素吾人ノ食膳ニ上ルコト多キ種類ヲ選ピテ研究 資料トナセリ・而シテ深海魚圏ハ余ノ地方ニ於テ ハ之ヲ獲ルコト難キニヨリ之ヲ除外ス・魚類中蛟 類(Selachier)ニ在リテハ其ノ第3類「エヒ」類 (Raja)中「アカエヒ」Dasyatis ノ眼球、硬骨魚類 (Teleostier)ニ在リテハ其ノ第2類骨鰾類(Ostariophysi)中ノ鯉(Cyprinus)及ビ鮒(Carassius)、 第3類無鯖類(Apodes)中ノ鰻(Anguilla)及ビ 「アナゴ」(Conger), 第 11 類 Percesoces 類=屬スル館 (Mugil), 第 14 類軟鰭類 (Acantoptergii) = 屬スル鯖 (Scomber) 及ビ鯛 (Pagrus) 並=第 17 類固顎類 (Plectognathi) 中鰒 (Tetrodon) 等ノ種類ヲ選ピタリ・以上 2,3 代表的ノモノニツキ稍々詳シク其ノ所見ヲ揭ゲ他ハ極メテ簡單ニ之ヲ記述スルニ止メントス.

研究ノ方法ハ総テ前數省ニ試ミタリシト同様ノ 方法ナルヲ以テー々茲ニ贅セズ.

第4章 研究成績

第1項 「アカエヒ」

鮫類網膜ノ視細胞ハー見圓柱體ノミヨリナ

リテ国錐體ヲ缺ケルガ如キ觀アリ (Leydig, H. Müller, Schultze 等) 「エヒ」類ニアリテ

モ同ジク極メテ正シク並列セル圓柱體ノミヨ リナルガ如シ,但圓錐體ハ全然缺如セルニア ラズシテ形態甚回柱體ニ酷似セルタメ注意セ ザレバ之ヲ區別シ得ザルナリ. (Heinemann, W. Müller, Krause, Franz 等). 「アカエヒ」 網膜視細胞ハ「ヘマトキシリンエオジン |染色 ニテハ内節ノ始部即チ核ニ近キ部ハ稍々濃染 シ同ジク濃染セル外節トノ間ニー部淡染ノ部 ヲ挾ム此部ハ特ニ破壞シ易キ傾向ヲ有シ屡々 此部ニ於テ內外兩節相壞離セルヲ見ル.「スダ ン」III 染色ニテハ外節ハ蓍シク染色シ且其 ノ表面ニ赤褐色顆粒狀物ヲ附着ス. 内節始部 ハ「へ」「エ」染色ニ見ル如ク濃染スルコトナ シ. 顆粒狀物ハ他ノ網膜層ニ於テモ之ヲ見, 屢々又泡狀ヲ呈スルモ外節ニ於ケル如ク蓍シ カラズ,外顆粒層ノ核ハ2又ハ3層ヲ數へ, 外網狀層ハ甚菲薄ナリ,內顆粒層ノ外層ニハ 魚類ニ固有ナル Fulcrumzellen ノ存在ヲ見 爲= Amakrynenzellen 及ビ Bipolarzellen 等ノ核ハ比較的鬆疎ニ存在ス,內網狀層,節 細胞層及ビ神經繊維層等ハ他種動物ト異ルコ トナク,只淡ク「スダン」ノ色ヲ取ル稍々特異 ノ所見トシテハ乳頭ニ於ケル Pekten 様隆起 ナリトス,此組織ハ専ラ「グリア」組織ョリナ リ周圍ニ神經纖維ヨリナレル鞘ヲ被リ著シク 硝子體腔ニ實出セリ,神經繊維ノ鞘ハ直ニ網 膜神經繊維層ニ移行ス・

色素上皮細胞ハ稍々厚ミヲ有セル細胞ニシ テ黑色圓形ノ色素顆粒ヲ有ス色素ハ主トシテ 細胞ノ基底部ニ在リテ比較的稀疎ナリトス. 色素ノ存在ハ部位ニョリ著シク濃淡アリ,後 極附近ニ於テハ甚稀薄ニシテ殆ド之ヲ見ザル 部アリ, 脉絡膜ハ著明ニ色素ヲ含有シ爲ニ脉絡膜 「タペーツム」ノ存在ハ脱色素セル標本ニアラ ザレバ之ヲ確ムルヲ得ザルモ色素上皮細胞内 色素ノ後極方面ニ於テ著シク減少セル事實ハ 或ハ「タペーツム」ノ存在ヲ推定スルニ足ルモ ノアラン、脉絡膜間質ニ比較的夥シク血球ノ 存在ヲ見ルモ脂肪染色ハ之ヲ認メズ

網膜毛様部ハ其ノ範圍比較的廣濶ニシテ從 テ毛樣體モ其ノ徑長キニ拘ハラズ發育甚微弱 ナリ,毛樣突起ハ殆ド發育セズシテ只僅二虹 彩根部ト Ora terminalis ノ中間ニ於テ1箇 ノ稍々高キ皺雙ヲ有スルノミ網膜毛樣部ノ圓 柱上皮細胞ハ恰モ此皺雙ヲ境トシテ虹彩側ニ 於テ俄ニ色素ヲ有スルニ至ル, 毛樣體ノ發育 ハ甚微弱ナルモ毛樣筋及ビ「クロマトフオー レン」ノ存在稍々著明ナリ, 虹彩組織ハ菲弱 ニシテ長ク筋繊維ハ僅ニ其ノ發育ヲ認ムルヲ 得ルノミ, 內被細胞ハ著明ニ色素顆粒ヲ含メ リ,毛様體及ビ虹彩基質並ニ其ノ部ノ上皮細 胞ニハ脂肪染色ヲ認メズ.

角膜上皮細胞層ハ角膜輪部二於テハ非常二多數ノ細胞層ヲ有シ、結膜上皮亦著シク複層ヲ呈ス、固有角膜部二於テハ基底細胞ハ骰子形ヲ呈シ其ノ外層ニ3,4層ノ稍々扁平ナル細胞不規則ニ並列ス、板層間ニ存スル固有角膜小體ハ其ノ形一定セザルモ一般ニ他ノ動物ノ如ク細長扁平ナラズ、内被細胞亦少シク厚ミヲ有スル細胞ニシテD氏膜ハ鮫類ニ在ツテハ之ヲ缺ケリ、上記ノ各組織ハ「スダン」ニ染色セズ、只上皮細胞層ノ僅ニ帶赤黄色ヲ呈スルノミ

水晶體 上皮細胞層及ビ水晶體繊維等特ニ 擧グベキ解剖的特徴ヲ認メズ,脂肪染色亦著 シカラズ。

翠膜 軟骨ハ硬骨魚類ト異り殆ド眼球ノ全 周ラ占ム,前方鼻側ニ於テハ Ora terminalis ノ部ニ終り顳顬側ニ於テハ殆ド角膜鞏膜界ニ 達ス後方視神經部ハ僅ニ神經ヲ通ゼシムベキ 孔ヲ形成ス,而シテ此部ニ於ケル軟骨ハ鷲ク ベキ厚徑ヲ有セリ.

視細胞外節ハ「スダン」III ニョリ著シク 赤褐色ヲ呈シ,内節ハ淡黄色ニ染ム,圓錐體 ハ前述ノ如ク圓柱體ト酷似シ之ヲ區別スルコ ト難キモ染色上甲ハ稍々黄色ヲ帶ビ乙ハ幾分 赤ミヲ加フルニョリ僅ニ之ヲ識別スルヲ得ベ シ

重屈光性所見

最著明ニ發現スルハ網膜ニシテ就中視細胞 屑ニ於テ著シ,結晶ハ多ク小針狀又ハ顆粒狀 ヲ呈シ,個々ニ分離發現スルハ少ク,多クハ 稍々相集合シテ發現セリ,溫ヲ加フレバ消失 シ,冷エレバ再現シ,且多ク十字型交叉像ヲ 呈ス,視細胞層ニ次ギテ多キハ神經繊維層及 ビ節細胞層等内側諸層ナリトス.

網膜以外ノ部分二於テハ殆ド重屈光性ヲ見 ズ, 只稀ニ1,2 / 定型的交叉像ヲ虹彩基質內 ニ認メタルニ過ギズ.

第2項 鯉及ビ鮒

此兩種ノ硬骨魚類眼球ハ解剖學的並ニ顯微 化學的所見ニ於テ殆ド相一致シ殆ド差異アル ヲ見ズ, 依テ之ヲ共述スルヲ便ナリトス.

鲤及ビ鮒ノ前房隅ニハ角膜内面ヨリ虹彩表面ニカケテ前房ノ大部ヲ領スル繊維網狀ノ組織所謂環狀靱帶 Ligamenthum annularis ノ存在ヲ見ル,此組織ハ角膜内面ハ殆ド共ノ中心領ヨリ初マリ虹彩前面ニ於テハ略ボ瞳孔線

ニ違シ。其ノ表面ラ被フ内皮細胞ハ角膜及ビ 虹彩ノ内被細胞ニ移行セリ、硬骨魚類ノ大多 數ハ皆此組織ノ存在ヲ認ムルモ多クハ單ナル 繊維様造構ニシテ密ニ配列セルハ角膜板層ト 比スベク鬆疎ナルハ哺乳動物ニ於ケルPektin 氏靱帶ノ稍々强ク發育セルガ如キ狀態ヲ呈ス ルニ止り、鯉及ビ鮒ニ於ケルガ如ク著明ノ網 狀ヲ呈スルハ他ニ其ノ類ヲ見ザル所ナリ,而 シテ網眼ハ中央ニ於テ大ニ側邊殊ニ虹彩表面 ニ接セル部ハ恰モ壓平セラルルガ如ク爲ニ繊 細ナル網眼ヲ形成ス,網眼内ニハ多數ノ橢圓 形若シクハ紡錐形ノ核ヲ有シ,或ハ網眼ノ中 央ニ或ハ其ノ側壁ニ存立セリ. 要スルニ結締 織細胞ノ核ニ外ナラザルモ時トシテ核ハ或種 ノ染色ニョリ殆ド常ニ縱走セル線ニョリテニ 分セラルルガ如キ觀ヲ呈セルコトアリ,又鮒 ニ在リテハ「ヘマトキシリンエオジン」染色ニ 於テ屋々網眼内ニ「エオジン 好染ノ硝子様圓 形ノ小顆粒ノ多數ヲ見ルコトアリ.

角膜上皮細胞層ハ輪部ニ於テハ極メテ多數 ノ細胞層ラ有セルモ固有角膜部ニ至レバ著シ ク其ノ層ラ減ジ多クハ 3-4 層ノ骰子形細胞 ト同ジク 3-4 層ノ扁平細胞ヨリ成ル,中心 部ニ至レバ更ニ減少シ 2-3 層ノ骰子形細胞 ノ上ニ 1-2 層ノ扁平上皮細胞ヲ被フ,而シ テ細胞ハ何レノ部ニ於テモ著シク泡狀ヲ呈

角膜板層ハ極メテ緻密ニシテ固有角膜小體 ハ著明ニ之ヲ認ムベシ, D氏膜ハ甚菲薄ニシ テ内被細胞層ト共ニ環状靱帶表面ニ移行セル ガ如シ.

以上角膜各部ハ「スダン」III 及ビ「ニルブ ラウ」ニョリ染色セズ,只上皮層ノミハ稍々 瀰蔓性ニ 徴 黄赤色 並ニ淡青色ニ染メルラ見

電膜ハ硝子様軟骨組織及ど結絡織繊維ョリナリ角膜輪部ョリ後方限球側壁ノ約 2/3 ハ軟骨組織ニシテ後方 1/3 ハ結綿織ョリ成立ス,軟骨ノ前端顳顬側ニ相當スル部ハ其ノ內外側ニ於テ「ヘマトキシリン」ニ濃染シ無構造ナル薄キ組織ヲ形成シツツ末端ハ細長ナル槍狀ヲ呈シ全ク繊維様軟骨ト化スルヲ見ル,此變化ハ鮒鯉共ニ之ヲ見ルモ鯉ノ方更ニ判明ナリ、軟骨ハ部位ニョリ其ノ厚徑ヲ異ニスルモ一般ニ後方ニ至ルニ從ヒ厚徑大ナルヲ常トシ,末端ハ著シク鈍端ニ終ル.

虹彩ハ全徑比較的長ク且他ノ魚類ニ比シ厚 徑稍々大ナリ. 虹彩/最表層/環狀靱帯/一 部ニョリテ被ハレ,固有虹彩ノ表層ニハ著明 ニ「クロマトフオーレン」ノ存在ヲ見ル,次位 ニ存在スルハ Membrana argentea ニシテ極 メテ緻密ナル細キ繊維ノ集合ヨリナリ暗褐灰 色ヲ呈ス,該繊維ハ瞳孔縁ニ初マリ可ナリノ 厚徑ヲ持シツツ縱走斜走若クハ輪狀ノ繊維ヲ 交へテ虹彩根部ニ向ヒ,次デ繊維ハ著シク菲 薄トナリテ脉絡膜外側ニ沿ヒ遠ク後方乳頭附 近ニ至ル、此繊維層ノ次位ハ間質結締織ニシ テ多數ノ大小血管存在ス. 次ニ繊細ナル筋繊 維層ヲ見,最内層ハ色素上皮層ニシテ2層ノ 細胞ヲ有シ,外葉ハ至ル處色素ニ豐富ナルモ 内葉ハ瞳孔縁ニ近キ一部ヲ除キ漸次色素ノ含 量稀疎トナリテ遂ニ後方網膜固有層ニ移行 ス.

硬骨魚類ニ於テハ旣ニ記セルガ如ク毛樣體 ノ發育ヲ見ズ,從テ虹彩上皮細胞層ハ直ニ網 膜組織ニ移行ス. 脉絡膜基質ハ甚鬆疎ニシテ血管ニ富 を後極 附近ノ上脉絡膜腔ニ於テハ著シク多數ノ大血 管腔ノ存在ヲ見ル. 魚類特有ノ器官トシテ視 神經進入部ノ周圍ニ於テ所謂脉絡膜體ノ存在 スルアリ,專ラ毛細血管ノ集合ニョル一種ノ 造血器官ノ如キ組織ニシテ著シク大ナル形態 ヲ有ス.

以上ノ各組織ニ於ケル脂肪染色ハ殆ド陰性 ニシテ「スダン」及ビ「ニルブラウ」ニョリ瀰蔓 性又ハ顆粒狀染色ヲ見ズ,軟骨鞏膜ノ如キモ 途ニ染色スルヲ見ズ,血管斷面ノ如キモ亦脂 肪染色ヲ呈セズ.

鯉及ビ鮒ノ眼球各組織中脂肪染色ニ最特異ノ反應ヲ呈スルハ色素上皮細胞ナリトス,此細胞ハ胞體ハ稍々高ク核ハ比較的小ニシテ多クハ細胞ノ中心ニ存スルモ時トシテ蓍シク頂部ニ偏在ス,色素ハ多クハ顆粒狀ニシテ移動セルモノモ桿狀ノモノハ比較的少ク且甚短シ,色素突起ハ甚著明ニシテ長ク且其ノ數夥シク,整然トシテ並列シ,其ノ狀恰モ刷毛ノ如ク或ハ櫛ノ齒ニ似タリ,突起ノ著明ニ進出セル際ハ殆ド外境界膜ニ達スルヲ見ル。

色素上皮細胞ハ「スダン」III染色ニョリ胞體一般ニ著シク黄赤色ニ染ミ,極メテ多數ノ大小不同ノ脂肪様滴ヲ以テ充滿ス・之等ノ滴狀物質ハ更ニ胞體ョリ遊離シ色素突起ノ間隙ヲ縫フテ盛ニ視細胞層ニ進出シ,微細顆粒狀ヲ呈シ,著明ニ圓錐體表面ニ附着セルヲ見ル・之等滴狀物ハ固ョリ部位ニョリ多少ノ差異アルモ略ボ全體ニ亙リテ存在ス,多クノ標本中ニアリテハ各自多少ノ差ヲ見ルモ全然之ヲ見ザルハ固ョリコレナシ,「ニルブラウ」ニョル染色ニ於テハ色素上皮細胞體ハ他ノ部ニ比ス

レバ遙ニ濃青ニシテ且幾分終色ヲ帶ビ滴狀物質亦著明ニ濃青色ヲ呈ス,色素突起ノ間隊及ビ末端分枝部ニ於テモ大小多數ノ滴狀物著明ニ青色ヲ呈シテ存在ス之等滴狀物質ハ脫色素セル標本ニ於テハ同ヨリ其ノ發現更ニ著明ニシテ大小無數ノ滴狀物質胞體內及ビ突起ニ沿セテ架ク視細胞層ニ充滿セリ.

上記色素上皮細胞内ニ發現セル脂肪滴様物質/本態如何,果シテ單ナル脂肪物質ナリヤ,或ハ硝子樣物質若シクハ澱粉様物質/類ニアラザルヤ,此疑問ラ解決スベク余ハ下/如キ方法ヲ試ミタリ.

脱脂法 普通試・ラルル方法即チ「アルコホル」、「エーテル」及じ「クロロフオルム」等所謂脂肪溶解性藥液ニョリテ組織ヲ脱脂シ,然ル後「スダン」染色ヲ試ミルニ稍々長ク藥液ヲ作用セシメタル標本ニ在リテモ依然トシテ著明ニ滴狀物質ノ存在ヲ認ムベシ,更ニ初ヨリ「エーテル」、「クロロフオルム」等ヲ以テ操作セル「バラフイン」包埋切片ニ就テ「スダン」染色ヲ試ミルニ殆ド滴狀物ノ存在ヲ認ムルコトナシ,即チ知ル本物質ハ脂肪溶解劑ニ容易ー溶解セザルモ而モ全然不溶解性ノ物質ニアラザルヲ.

V. Gieson 氏法及ビ沃度反應ヲ檢セシニ共ニ陰性ニ了リ、「メチールビオレツト」染色ニョルニ滴狀物ハ紫色ヲ呈スルモ紅色ニ染マズ即チ上記脂肪溶解性並ニ之等2,3ノ方法ニョリテ按ズルニ此物質ハ遂ニ脂肪樣物質以外硝子樣物質又ハ澱粉樣物質等ヲ肯定スル能ハザルモノナルヲ知ルベシ.

更ニ Smith 及ビ Fischler 氏法ヲ試 ミルニ 上記脂肪様物質ハ共ニ陰性ナルモ, 只鮒ノ外 顆粒層二**於テ圓錐體核ト認**ムベキ黑染セル顆 粒ノ整然トシテ並列セルヲ見タリ.

松浦博士(昭和7年)ハ鮒ノ色素上皮ニ於 テ上記物質ノ存在ヲ認メ其ノ染色反應上「オ スミユーム」酸ニ對スル態度ノ他ノ動物(蛙, 蛇及ビ家鶏)ト異ナルヲ注目セシモ恐ラク蛙 眼ニ於ケル氏ノ所謂大油球ト同一物ナラント 認定セリ,

網膜殊ニ視細胞ノ構造ハ固定標本ニ於テモ 比較的明カニ之ヲ見ルヲ得ベク,就中圓錐體 ノ形態ハ圓柱體ニ比スレバ大ニ判明ニシテ 「エリブソイード」ハ微細顆粒狀ヲ呈シ,油球 ハ兩棲類等ニ比シ各種脂肪染色ニ反應スルコ ト微弱ナルタメ稍々不明ナルモ多クハ圓形空 胞様ヲ呈ス,圓錐體個々ノ所在ハ高低稍々一 ナラズ,且色素移動ニョリ其ノ位置多少變化 スルヲ見ル,即チ明位ニアリテハ外境界膜ニ 近ク,暗位ニ於ハテ稍々外方ニ延ブ,圓柱體 ハ死後ノ變化特ニ著シク多クハ崩壊セルヲ以 テ其ノ形態ヲ確メ難シ.

外顆粒層核ハ形稍々小ナルモ配列兩棲類二 比シ可ナリニ夥シク,鯉ニ在リテハ6-7層ヲ 數へ,鮒ニ於テハ10層ニ近シ,兩種共ニ前置 圓錐體核ヲ見ルコト多シ,外網狀層ハ甚菲薄 ニシテ內顆粒層トノ境界甚不明ナリ,內顆粒 層核ハ稍々大ニシテ鬆疎ニ存在ス,內顆粒層 ニ於ケル所謂水平細胞(Horizontal Zellen) ハ比較的大ナル胞體ヲ有シ,Ciaccio氏法ニョ レバ其ノ形甚明瞭ニ見ルヲ得ベク,各細胞ハ 原形質ノ凝固ノ爲カ胞體ノ外半顆粒狀ヲ呈シ 其ノ爲各個ノ胞體ヲ通ジ恰モ帶狀繊維ニョリ テ横ニ連絡セラルルガ如ク見ユ,更ニ内網狀 層側ニ存スル細胞モ亦各細胞間ニ各幅廣キ繊 維様突起ヲ出シテ相連絡セルヲ見ル・其ノ外 「ビボラール」細胞ノ突起及ビ支柱繊維等此染 色ニョレバ甚著明ニ之ヲ認ムルヲ得ベシ,內 網狀層及ビ節細胞層間ノ境界亦甚不明ニシテ 節細胞ハ屢々內網狀層内ニ迷入セルヲ見ル・

網膜ノ脂肪染色ハ色素上皮細胞及ビ視細胞 ヲ除ケバー般ニ甚微弱ナリ、色素上皮細胞ニ 於ケル脂肪様滴及ビ視細胞間並ニ其ノ表面ニ 附着セル小顆粒ノ狀況ハ前既ニ之ヲ述ベタ リ. 之等ノ脂肪滴ハ脫色素標本ニ就テ之ヲ見 レバ色素上皮細胞内或ハ半バ之ヨリ逸出セル 極メテ巨大ニシテ稍々不正形ヲナセル油滴樣 物質ノ存立ヲ見ル可ク,微細ナル滴ハ更ニ圓 錐體及ビ圓柱體間ニ多數進出セルヲ見ル,而 シテ圓錐體內固有ノ油球ハ各種染色ニ反應ス ルコト微弱ニシテ多クハ圓形空胞様ヲ呈シ, 殊ニ Ciaccio 氏法ニョレバ油滴ハ多ク圓錐體 内節ノ末端ニアリテ 2,3 箇若シクハ以上相集 合シテ存立シ, 單二1箇ノミナルコトハ比較 的少シ, Ciaccio 氏法ニョレバ視細胞殊ニ圓 柱體外節及ビ神經纖維層ハ稍々著明ニ橙黃色 二染ムモ爾餘ノ諸層ノ染色ハ甚淡シ「スダン」 III ニョル網膜諸層主トシテ繊維様層ノ着色 亦比較的淡シ.

重屈光性所見

此種魚類ニ在リテモ個々ノ動物ニ依リテ重 屈光性物質ノ發現ニ著シキ差異ヲ見ル,即チ 少キハ殆ド之ヲ見ザル程度ヨリ多キハ可ナリ 夥シク發現スルアリテ必ズシモ一定セズ,鯉 ニ於テ著明ニ發現スルモノニアリテハ視細胞 及ビ内網狀層主トシテ好發生部位タリ.形ハ 小ニシテ針狀又ハ顆粒狀ヲ呈シ,往々加溫セ ザル標本ニ於テ旣ニ定型的十字交叉ヲ呈スル コトアリ、色素上皮細胞内ニモ亦制然重屈光 性物質ラ見ル、鮒ニ於テハ最著シク發現ラ見 ルハ神經繊維層ニシテ之ニ女グバ内網狀層ナ リ、視細胞ハ其ノ發現比較的少シ,之ラ要ス ルニ色素上皮細胞及ビ視細胞層ニ於ケル彼ノ 著明ナル大小油球ノ存在ハ直ニ重屈光性物質 ノ發現ト全然相一致スルモノニアラザルヲ知 ルベシ

Membrana argentea ハ緻密ナル繊維トシテー種ノ重屈光性ヲ放ツモ「コレステリンエステル」ヨリ來ル重屈光性トハ固ヨリ全ク相異ル,脉絡膜體ハ著明ニ重屈光性物質ヲ含ミ稍々大ナル針狀ノ結晶ヲ見ル・水晶體ニ於テハ主トシテ其ノ中心部ニ極メテ微細ナル小點狀重屈光性物質ヲ見ルモ輕々銭檢スレバ全ク看過スルノ恐アリ・

上記諸組織以外 角膜及ビ鞏膜殊ニ軟骨部 ニ於テハ全然重屈光性ヲ認メズ, 只脉絡膜ニ 在リテハ其ノ間質中可ナリ著シク小點狀若シ クハ針狀結晶ノ發現ヲ見ル.

第3項 鯛

角膜 未ダ敷齢ニ充タザル動物ニ在リテハ角膜實質ハ「スダン」III ニハ殆ド染色セザルモ「ニルブラウ」ニハ稍々青色ニ染え,稍々年齢ヲ加へシ大鱗ニ在リテハ角膜板層殊ニ其ノ表層ノモノハ「スダン」ニ染えテ帯赤黄色ヲ呈シ「ニルブラウ」ニョリテ濃青ニ染ム・上皮細胞層ハ周邊ニ在リテハ 6—7層,中央ニ於テハ 3—4 層ノ骰子形細胞ト其ノ表層ラ被フニ1—2層ノ扁平上皮細胞ョリナル・上皮層ハ他ノ總テノ動物ト同ジク稍々「スダン」ニ染え帯赤黄色ヲ呈シ「ニルブラウ」ニョリテ青色ニ染ム,Bowman 氏膜ハ甚著明ニ之ヲ區別スルヲ

得ルモD氏膜ハ殆ド之ヲ識別スル能ハズ,環 狀靱帶ハ全然繊維様造構ニシテ略ポ角膜板層 ト似タリ,其ノ角膜内面ヨリ發シテ前房隅ニ 充タシ更ニ虹彩前面ニ被ヒ瞳孔縁ニ達セルノ 狀鯉及ビ鮒等ニ於ケルト同様ナリ.

眼球結膜上皮細胞ハ著明ニ色素ヲ含ミ色素 ノ一部ハ角膜邊緣ノ上皮ニ移行セルモノア リ. 結膜下組織内ニハ多量ノ脂肪滴ノ存在ヲ 見ル.

虹彩前面表層(環狀製帶ノ下固有虹彩組織)ハ著明ニ色素ヲ含メル細胞アリテ恰モ下位ノM. argentea 繊維束上ニ跨レルガ如キ狀況ヲ呈セリ,此繊維ハ部位ニョリ著シク發育ニ差アリ・輪狀若シクハ放射狀ニ走リ後方脉絡膜内ニ移行ス,繊維ハ鯉鮒等ト同ジク頗ル緻密ニ集合シ暗灰褐色ヲ呈ス・此繊維束ノ前方比較的多數ノ「クロマトフオーレン」ノ存在セル部ハ脂肪染色ニョリ著明ニ大小多數ノ脂肪滴ノ存在ヲ見ル・基質ハ一般ニ「スダン」ニョリ帶赤黄色ニ染を多數ノ血管ヲ有ス後面ヲ被フ上皮細胞ハ極メテ多量ノ黑色色素ヲ包有ス,毛様體ハ其ノ發生ヲ認メズ從テ虹彩ハ直ニ網膜竝ニ脉絡膜組織ニ移行ス・

鞏膜 軟骨部ハ鯉鮒等ニ同ジク角膜輪部ョリ後方眼球側壁ノ約 2/3 ヲ領ス. 而シテ鯉鮒等ニ見ルガ如ク軟骨前方ノ一部繊維様ヲ呈スル外後方ニ於テモ軟骨外圍ニ於テ「ヘマトキシリン」 濃染ノ繊維様組織ヲ有セル部アリ,且軟骨厚徑ハ部位ニョリ頗ル差異ヲ見ル.

脉絡膜 上脉絡膜腔ハ著シク鬆疎ニシテ廣 ク多數ノ中性脂肪滴及ビ大小多數ノ血管ノ存 在ヲ見ル・視神經ヲ挟デ存在セル脉絡膜體ハ 著明ニ發育セルモ鯉ニ比スレバ稍々其ノ形小 ナルガ如シ、硝子膜ノ發育基著明ニシテ比較 的厚ク部位ニョリテ多少黄色(「スダン」染色) ヲ呈スルヲ見ル、脉絡膜間質及ビ血管斷面ニ 於ケル「スダン」染色ハ著シカラズ.

網膜「スダン」染色ハ他ノ部ニ比スレバ甚著明ニシテ瀰蔓性黄赤色ラ呈ス,就中視細胞層染色最著シク,之二次デハ内外網狀層及ビ神經繊維層等ナリトス.視細胞層ニ於ケル圓錐體ハ形稍々細長ニシテ頸部及ビ體部ノ間其ノ幅ニ差異ヲ見ズシテ極メテ正整ニ並列セル狀恰モ葉卷煙草ヲ並列セルガ如シ,圓柱體ハ死後現像トシテ著シク崩壊シ爲ニ個々ノ形態全ク明カナラズ只一面ニ顆粒狀ヲ呈シ,圓錐體ト共ニ著シク「スダン」ノ色ヲ取リ帶赤黄色ヲ呈ス.

色素上皮細胞内色素ハ極メテ豐富ニシテ胞 體ハ殆ド其ノ構造ヲ知ルニ苦シム,少クトモ 鯉等ニ見シ脂肪様滴狀物質ノ存セザルハ明カ ナリ.色素突起ノ形ハ鯉鮒等ノ如ク正整ナラ ズシテ寧ロ草木ノ根ヲ見ルガ如ク若シクハ火 烙ノ燃ユルニ似タリ色素顆粒ハ胞體内ノモノ ハ圓形顆粒狀ヲナシ突起内ニ進出セルモノハ 多ク短桿狀ヲ呈ス.

外顆粒層核ノ配列ハ甚多數ニシテ境界判然 タルモ,外網狀層及ビ內顆粒層間ノ境界ハ甚 不明ニシテ時トシテ恰モ1層ノ如ク見ユ,內 顆粒層ハ幾分繊維様造構ヲ有シ核ノ存在甚繋 疎ナリ,內網狀層及ビ節細胞間ノ境界亦甚明 カナラズ,之等ノ諸層亦一般ニ「スダン」ノ色 ヲ取リテ淡帶赤黄色ヲ呈ス.

「ニルブラウ」ニョル染色ハ視細胞層特ニ濃 青ニ染ミ,内側ノ繊維様層亦淡青色ニ染メリ. 上脉絡膜腔及ビ鞏膜外圍ノ脂肪組織ハ著明ニ 青染ス.

重屈光性所見

重屈光性物質ノ發現極メテ顯著ニシテ,網膜殊ニ視細胞層及ビ内網狀層並ニ神經繊維層ニ著シ,結晶ハ小針狀又ハ顆粒狀ヲナシ,或ハ相集リテ東針狀ヲナシ,或ハ相融合シテ塊狀ヲナス・發現ノ狀況カク一定セザルモ加温ニヨリテ消失シ,再現スルヤ多ク液體結晶ヲ呈スルハ他ノ者ニ同ジ,屢々又加温セザル標本ニ於テモ著明ニ液體結晶ヲ呈スルアリ(附圖 XI)、殊ニ視神經並ニ其ノ附近ノ神經繊維層ニ著明ナリ、

脉絡膜及ビ鞏膜等二於テモ其ノ數多カラザルモ小顆粒狀若シクハ點狀重屈光性物質ヲ見虹彩銀膜ハー種ノ重屈光性ヲ呈スルモ「コレステリンエステル」ニアラズシテ繊維様組織ノ有スル特性ニ外ナラズ、虹彩表層ニ於ケル脂肪様滴ハ重屈光性ヲ放ツコト比較的少シ、間質組織内ニハ往々點狀顆粒狀重屈光性物質ヲ見ルモ其ノ數多カラズ、角膜上皮細胞層及ビ質質内等亦甚稀ニ小點狀重屈光性物質ヲ含

遠環狀靱帶亦孤立性ノ小顆粒ヲ見ルモ其ノ數 甚少シ・

視神經繊維內二ハ極メテ多數ノ小結晶塊整 然トシテ發現ス,水晶體ハ其ノ核部及ビ皮質 深部ニ於テ小點狀重屈光性物質ノ存在ヲ見ル モ其ノ數甚少シ.

第4項 鰻

解剖學的特異ノ點トシテハ網膜各層二於ケル毛細血管腔ノ多數ニ存在セル事實ナリ,蓋シ硬骨魚類ニ在リテハ網膜ハ全然血管ヲ有セズ其ノ之ヲ有セルハ只鰻及ビ其ノ近親種屬ナル海鰻(「アナゴ」)ノミニ渦ギズ,又他ノ魚類

ニ見ル脉絡膜體ハ此動物ニ在ツテ全ク之ヲ缺 如ス,前房内ニ存スル環狀靱帶亦其ノ發育徵 弱ニシテ僅ニ Pektin 氏靱帶ニ匹敵スルノ程 度ニ過ギズ、

網膜視細胞中圓錐體ハ存在比較的稀疎ニシテ且其ノ多數ハ核ノ所在外境界膜外方ニ在リ所謂前置圓錐體核ヲ成ス,此事實ニヨリテ他ノ總テノ點ニ於テ同一ナル近視魚族海鰻ト區別スルヲ得,圓柱體ハ全然崩壞セルニョリ其ノ形ヲ認ムルヲ得ズト雖モ Franz ノ説ケルガ如ク全ク糸狀ナリトハ信ゼラレズ。

「スダン」III 染色ニョレバ色素上皮細胞稍 赤黄色二染ミ,繊維様層亦幾分染色ス「ニル ブラウ」ニョリテ視細胞ハ他ノ部ニ比シ稍々 青色ニ染ム.

重屈光性所見

結晶ハ主トシテ小針狀ヲナシ内網狀層、神 經繊維層等ニ發現ス、視細胞ニハ殆ド之ヲ見 ズ.

網膜以外ノ部ニ在リテハ脉絡膜及ビ虹彩等 ノ基質ニ僅ニ之ヲ見ルニ止ル.

第5項 海鰻(「アナゴ」)

總テノ狀態鰻ニ酷似シ,只圓錐體ノ存在甚 稀疎ニシテ且其ノ核ノ前置セルヲ見ズ,圓柱 體ハ極メテ長圓柱狀ニシテ密ニ存在セリ,外 顆粒層核ハ比較的多數ニシテ後極附近ニ於テ ハ10 層若シクハ以上ヲ數へ 內顆粒層ハ 僅ニ 3-4ノ核ノ配列ニ過ギズ,內顆粒層ニ於ケル 水平細胞ハ之ヲ見ズ,一般ニ魚類眼球網膜ニ 於テハ甚著明ニ Stützfaser ノ存在ヲ認ム.

第6項 鯖

一般ニ魚類ノ虹彩(兩棲類、爬蟲類及ビ其ノ他ノモノハ毛様體ト共ニ)ハ皆多少不對性ニシテ鼻側ハ常ニ顳顬側ヨリモ廣シ、鯖ニ在ツテモ虹彩ハ其ノ內外兩側ニ於テ著シク不對性ニシテ一方(鼻側)ハ間質繊維ノ發育著シク且血管斷面ノ數及ビ大サニ於テ著シク勝リ一方(顳顬側)ハ其ノ幅狹ク間質及ビ血管ノ發育甚劣レルヲ見ル.

網膜ハ著明ニ「スダン」ニ染ミテ黄赤色ヲ呈ス,殊ニ内網狀層及ビ視細胞層ニ著シク,色素上皮細胞亦著明ニ染色ス,但シ色素ニ被ハレ微細構造ハ之ヲ知ルヲ得ザルモ「スダン」ニョリテ瀰蔓性ニ黄赤色ヲ呈ス,圓錐體ハ形稍々大ニシテ隅ヲ圓メタル長方形ニ近ク極メテ正整ニ並列シ,双밀錐體(Zwilling Zapfen)稍々多數ニ存在ス,脉絡膜體ノ發育ハ鯉鮒等ニ比シテ稍々劣レリ,前房内ニ存スル環狀靱帶ハ緻密ナル繊維樣造構ヲ有シ稍々鯛ノ夫レニ似タリ.硬骨魚類ニ在リテハ多ク硝子體血管(兩棲類ノ如ク)ヲ有スルモ鯖及ビ次ニ掲グル兩3種ノモノハ之ヲ缺ケリ.

重屈光性物質ハ可ナリ著明ニ出現ス、殊ニ 色素上皮細胞,視細胞層及ビ神經繊維層等ニ 著シク中間層亦稍々著明ニ之ヲ含有ス,但シ 中間各層ニ見ルモノハ比較的大ナル結晶塊ヲ 形成セリ・水晶體ニ於テハ皮質内ニ少數ノ線 狀又ハ顆粒狀重屈光性物質ヲ見ルモ中心部ニ ハ之ヲ見ズ,虹彩及ビ脉絡膜等亦稀ニ之ヲ見 多クハ點狀ヲナセリ・

第7項 鰒

圓錐體層ハ鯛ニ見ルガ如ク極メテ整然トシテ配列スルモ形稍々長クシテ徳利形ヲ呈ス,

内容ハ微細顆粒狀ヲナシ,色素突起ハ側錐體外節ニ達ス, 個柱體ハ他ノモノト同ジク細長ニシテ多クハ崩壊シ,只一面ニ顆粒狀ヲ呈ス,色素顆粒ハ桿狀ニシテ色素上皮細胞基底部ニ存シ頂部ハ全ク色素ヲ含マズ,「スダン」染色ハ網膜ニ於テ比較的淡ク,水晶體ハ瀰蔓性ニ染ミ稍々帶赤色ヲ呈ス,脉絡膜體部ノ結締織組織ハ「スダン」,「ヘマトキシリン」染色ニ於テ鮮明ナル淡紫色ニ染ム,虹彩ハ甚細長ニシテ銀膜ハ鮒鲤等ニ比スレバ稍々其ノ色調ヲ淡クス.

重屈光性物質ノ發現甚著明ニシテ殊ニ視細胞層ニ於ケル出現ハ他ノ魚類ニ比シ甚夥シク色素突起ノ間隙及ビ其ノ表面ニ多數ノ針狀結晶ヲ見ル,勿論加溫ニョリ消失シ,冷ユレバ再現シ屢々十字型交叉像ヲ呈スルコト上記各種動物皆同様ナリトス. 視細胞ノ外内外網狀層内顆粒層及ビ神經繊維層等亦著明ニ結晶ヲ含ム.

水晶體ハ皮質ニ於ケル繊維間際ニ小ナル點 狀又ハ線狀重屈光性物質ヲ見ルモ其ノ數多カ ラズ、中心部ニハ之ヲ見ズ、角膜亦之ヲ見ル コトナシ

第8項 鰡

業膜軟骨ハ比較的短ク其ノ前半ハ細長無造構ニシテ「ヘマトキシリン」ニ濃染シ槍狀ヲ呈スル組織トナル,此變化ハ他ノ魚類ニ在リテハ多クハ眼球ノ1側ニ限ラレ且多クハ此種ニ於ケルガ如ク長カラズ,環狀靱帶ハ緻密ナル繊維ニシテ虹彩前面ニ附着セル一部ハ少シタ網狀ヲ呈スルモ角膜內面ニ向ヘル大部ハ恰モ角膜板屑ノ如ク只繊維ノ方向稍々異レルノミ郷及ビ鮒ニ於ケル如ク網狀組織様ノモノヲ除

クノ外多クノ魚類ガ皆此形態ヲ呈スルモ特ニ 此魚ニ於テ正整緻密ナリトス.

国錐體ハ此魚類ニ在リテハ其ノ敷稍々少ク 且其ノ配列甚不規則ニシテ高低甚定ラズ,低 ク存在セルモノハ視細胞層ノ外 1/3 ノ境ニ存 シ,高キハ內 1/3 ノ部ニ在リ,前置圓錐體核 亦稍々多數ニ存在ス,色素突起ハ發育稍々短 キガ如ク,內顆粒層內ノ水平細胞ハ極メテ鮮 明ナリ.

重屈光性物質ハ針狀又ハ東針狀ヲ呈シ主トシテ網膜各層ニ發現ス、視細胞層及ビ色素上

皮細胞内亦比較的著明ニ其ノ出現ヲ見ル (附 圖 X 参照).

水晶體皮質内亦稍々著明ニ其ノ存在ヲ認メ 點狀又ハ線狀ヲ呈ス,中心部ニ於テハ只稀ニ 小點狀ノモノノ散在スルニ過ギズ.

視神經繊維及ビ乳頭面上亦極メテ多數ノ顆 粒狀若シクハ針狀ノ結晶ノ出現ヲ見ル・

以上重屈折性物質ハ加熱時消失,冷却後再 現スルコト型ノ如ク,且液體結晶ヲ現出スル コト亦他ノモノト同ジ.

第5章 概括竝二要結

魚類眼球ニ發現スル脂肪及 ビ類脂肪殊ニ 「コレステリンエステル」ノ狀況略ボ上述ノ如 シ, 只余ノ研究材料ハ其ノ種類僅ニ 6,7種ニ 過ギズ,其ノ所見ニ於テ略ポ相一致スルモ各 種類間ニ又多少特異ノ點アルヲ認メザルヲ得 ズ,卽チ前數囘ニ亙リテ記述セル各種動物ノ 眼球ニ於ケルト同ジク魚類就中鮫類及ビ硬骨 魚類眼球ニ於テモ著明ニ類脂肪殊ニ「コレス テリンエステル」ノ發現アリ, 只魚類ニアリ テハ其ノ發現兩棲類及ビ爬蟲類ト同ジク專ラ 網膜組織ニ於テ著明ニシテ爾餘ノ組織ニ於ケ ル發現甚稀少ナリトス, 而シテ發現スル類脂 肪ハ染色反應上主トシテ色素上皮層及ビ視細 胞層ニ著明ニシテ繊維様層之ニ次グ,光學的 檢査上重屈光性物質ハ他ノ動物種類ト同ジク 點狀針狀若シクハ東針狀ヲナシ又往々集團的 結晶塊トナリテ現レ主トシテ神経繊維層(視 神經纖維内ニモ)及ビ内網狀層等ニ夥シク又 特ニ視細胞層ニ著明ナルモノアリ, 只魚類ニ 在リテモ亦同一種ノモノニシテ而モ時季ヲ同

フシテ之が研究ヲ試ミタルモノニ於テモ可ナ リ著シキ個體的差異ヲ見ルハ免レザル所ニシ テ此物質ノ存在ハ必ズシモ常ニ固定的ニアラ ポシテ或程度ノ消長ハ遂ニ之ヲ否定スル能ハ ズ、而シテ余ノ研究ニ於テ最モ注目スベキ所 見い實ニ鮒及ビ鯉ニ見シ色素上皮細胞ニ於ケ ル分泌機能様所見ナリトス、卽チ此部ニ於テ 胞體及ビ其ノ突起ノ內外ニ極メテ著明ニ大小 無數ノ脂肪様滴狀物質ノ發現ヲ認メ。該物質 ハ「スダン」III ニヨリ黄赤色ニ「ニルブラウ」 ニョリ濃青色ニ染ミ, 胞體ハ爲ニ殆ド充滿シ 更ニ胞體ヨリ進出セル此等滴狀物ハ突起ニ沿 ヒテ視細胞間ニ游出シ, 圓柱及ど圓錐體表面 ニ附着存在セリ,其ノ狀恰モ色素上皮細胞内 ニ分泌セラレタル産生物ノ突起ニョリテ視細 胞内ニ輸送セラルルガ如キ觀アリ. 此所見ハ 余ノ研究ノ範圍ニ於テハ鯉及ビ鮒ニ之ヲ見ル ノミニシテ他ノ魚類ニアリテハ全ク類似ノ所 見ナシ,此物質ノ果シテ脂肪様物質ナリヤ, 或ハ硝子様物質若シクハ澱粉様物質ノ類ニア

ラザルヤラ解決セントセシ余ノ研究ハ前述ノ 如ク途ニー種ノ類脂肪タルラ肯定セシムルニ 至レリ・只其ノ顯微光學的性質ノ染色所見ニ 比シ著シク異ナレルヲ以テ見レバ其ノ類脂肪 ノ「コレステリンエステル」ノ外ニ所謂狹義ノ 「リポイード」ノ多量ヲ含有セルモノナルヤ疑 ヒナカルベシ・

網膜ニ比シ他ノ眼球組織ハ類脂肪反應遙ニ 微弱ニシテ,水晶體ノ如キモ皮質內及ビ中心 部ニ於テ稀ニ小點狀又ハ線狀ノ重屈光性物質 ノ少數ヲ認ムルニ過ギズ,脉絡膜虹彩等亦之 ガ發現甚少シ,角膜及ビ鞏膜等ニハ終ニ殆ド 之ヲ見ズ鞏膜繊維様部ニ於テハ脂肪細胞ノ存 在ハ古ク之ヲ唱フルモノアレドモ余ノ檢査セ ル範圍ニ於テハ之ヲ認ムルコト能ハザリシ. 解剖學的所見ノ他ノ動物ニ比シ特異ノ點ハ 硬骨魚類ニ在リテハ脉絡膜體ノ存在及ど前房 内環狀靱帯ノ存在ナリトス,兩者共ニ其ノ生 理的機能ニ就テハ未ダ充分闡明ノ域ニ達セザ ルモ甲ハ一種ノ造血器官トシテノ存在ニ外ナ ラザルベク、乙ハ恐ラク水壓ニ對スル眼球外 壁殊ニ角膜ノ保護装置ト見ルベキモノナラン カ

尚ホ個體的特異點トシテハ鰻及ビ海鰻網膜ニ於ケル多數ノ毛細血管ノ存在ニシテ其ノ他 鯛,鰒及ビ鯖等ニ於ケル圓錐體ノ整然タル配 列,之ニ對シテ鰡圓錐體ノ整列ノ甚シキ不整 竝ニ海鰻網膜圓錐體ノ蓍シキ稀少等モ亦聊カ 特異ノ點トシテ數フベキカ.

第6章 全編ヲ通ジテノ概括及ビ結論

以上數囘ニ亙リテ余ハ各種脊椎動物ノ眼球 ニ於ケル類脂肪殊ニ「コレステリンエステル」 ノ發現狀況ニツキ略ポ其ノ大要ヲ記述シタ リ,而シテ家兎及ビ家鷄ノ胎生期眼球ニ於ケ ル該物質ノ發現極メテ顯著ナル事實ニ顧ミ, 一方清野博士及ビ中院博士ノ未分化血球ニ於 ケル竝ニ山口氏ノ家鶏「エンブリオ」ノ皮下脂 肪組織ニ於ケル所見等ヲ考察スレバ本物質ノ 個體發生上極メテ重要ナル意義ヲ有スルモノ ナルコト殆ド疑フノ餘地ナカルベシ,而モ該 物質ノ眼球各部中殊ニ網膜及ビ水晶體等卽チ 從來人工的「コレステアトーゼ」又ハ生體染色 試驗ニ於テ類脂肪及ビ色素顆粒ノ沈着甚困難 ナリト稱セラルル部位ニ於テ甚顯著ナル事實 **ハ特ニ注目ニ値スベク, 此事實ハ又余ノ人胎** 見ニ於ケル研究ニョルモ終始初期ニ在テハ正

ニ確認セラルル所見ナリトス。

更二幼弱ナル動物並ニ成熟動物ニ於ケル該物質ノ消長ニ闘シテハ家東ニ就テ研究スル所ニョレバ胎生期中一般ニ甚著明ニ發現セシ此物質を生後一定ノ期間テ過ギ動物ノ漸次成長スルニ從ヒ漸ク減少ノ傾向ヲ辿リ,或ル時期ニ至レバ襲ニ著明ニ之ヲ認メシ網膜及ビ水晶體等ノ部ニ於テモ一時殆ド之ヲ見ザルカ若シクハ甚幽微ニ之ヲ認ムルニ過ギザルニ至ル,而シテ更ニ年齢ヲ加フルニ從ヒ再ビ其ノ發現ヲ加フルヲ見ル,此事實ハ人限ニ於ケル老性變化トシテノ類脂肪沈着ト對比シ略ポ同一ノ機轉ニョリテ來ルモノナルガ如シ。

鳥類以下ノ動物即チ爬蟲類, 兩棲類及ビ魚類, 眼球ニ於ケル類脂肪發現ハ主トシテ網膜ニ著シク殊ニ色素上皮細胞及ビ視細胞ニ著明

ニシテ其ノ他ノ限組織ニ於テハ殆ド其ノ出現 ヲ見ザルカ或ハ僅ニ共ノ存在ヲ 見ルニ過ギ ズ,而シテ此種動物ノ色素上皮細胞及ビ視細 胞ニ於ケル「リポクリン」竝ニ油球ニ關シテハ 古來多數ノ學者ノ研鑽ニョリ略ポ閘明ノ域ニ 達シ又蛇足ヲ加フルノ要ナキガ如シ. 高等哺 乳動物ノ色素上皮細胞内「リポクリン」ハ家兎 及ビ2.3動物ニ見ルガ如ク極メテ顯著ナル存 在ヲ除ケバ其ノ存在稍々不確實ナルハ事實ニ シテ就中人牛及ビ豚ニ於テハ全然之ヲ見ザル モノト信ゼラレタリ、然ルニ余ノ鏡檢スル所 ニョレバ人ノ眼球ニアリテハ Kolen ノ唱フ ル如ク胞體内ニ多數ノ微細脂肪顆粒ノ存在ラ 認メ牛ニ在リテハ其ノ數甚多カラザルモ確ニ 「リポクリン」!存在ヲ肯定セシムルモノア リ. 更ニ視細胞油球ニツキテハ白鼠及ビ家鼠 (後者ニ於テハ其ノ發現稍々少キモ)ニ於テ **圓錐體内ニ甚著明ニ其ノ存在ヲ認ムルヲ得タ** リ.

色素上皮細胞及ビ視細胞内油球ハ動物ノ種類ニョリ必ズシモ同一性質ノ類脂肪ニ非ラザルベキハ殆ド凝フベカラザル事實ニシテ染色上或パーコレステリンエステル」ヲ肯定シ若シクハ「グリセリン」脂肪酸「エステル」ヲ想像シ或ハ狹義ノ「リポイード」ヲ想定セシムル等甚一定セズ,更ニ光學的檢查成績ニ至リテモ亦之ト同ジク屡々「コレステリンエステル」以外狹義ノ「リポイード」ヲ想像セシムルモノアリ,其ノ最著明ナル例トシテハ鮒及ビ鯉ニ見ル色素上皮細胞内油球及ビ蛇類殊ニ「あをだいしやう」ノ圓錐體油球ノ如キハ特ニ一般油球ト共ノ形態及ビ理化學的反應ニ於テ著シキ差異ヲ呈スルヲ見ルベシ、

網膜殊ニ其ノ内方各層ニ於テハ脂肪染色上 「リポイード |物質ノ存在一般ニ甚不明ナルヲ 常トスルモ而モ重屈光性:ハ毎常比較的顯著ニ 出現シ殊ニ下等動物ニ於テ特ニ蓍明ナルモノ アリ, 而シテ之等重屈光性物質ハ温メザル標 本ニ於テ既ニ往々十字型交叉像ヲ呈シ,加溫 標本ニ於テ更ニ著明ニ之ヲ發現スルハ殆ド例 外ナキ所見ニシテ即チ「コレステリンエステ ル」ノ網膜内ニ於ケル重要ナル化學的成分ラ ナセルハ否定スベカラザル事實ナリトス,而 シテ蛙眼ニ於ケル暗位網膜ノ之ヲ明位網膜ニ 比シテ光學的檢查上可ナリ著明ニ「コレステ リンエステル」ノ蓄積セラルルノ事實竝二冬 眠動物網膜ニ於ケル視細胞ノ稍々著明ニ「コ レステリンエステル」ヲ貯藏セルノ事實ハ所 調視紅素ヲ組成セル類脂肪中「コレステリン エステル」ガ其ノ主要ナル一成分トシテ正ニ 閑却スベカラザルモノナルヲ物語ルニ近カラ ンカ.

水晶體殊二人限水晶體二於テ余ハ比較的 屡々其ノ皮質及ビ核部二染色上及ビ顯微光學 上著明二類脂肪ノ沈着ヲ見タリシコトハ別項 之ヲ述ベタリ,之ト同様二家鬼及ビ家鶏水晶 體二於テモ稍々年齢ヲ重ネシ動物二在リテハ 又其ノ皮質及ビ核部ニ類脂肪殊ニ「コレステリンエステル」ノ沈着ヲ見タリ,加之家鬼ニ 在リテハ比較的幼若ナル動物ニ於テモ明カニ 其ノ中心ニ Smith 及ビ Fischler 氏法ニ陽性 反應ヲ呈スル類脂肪ノ沈着ヲ見尚ホ此反應ハ 年ト共ニ漸ク増加ノ傾向ヲ伴ヘルヲ知レリ. 之ヲ以テ觀レバ水晶體ニ於ケル類脂肪ノ沈着 ハ2,3研究家ノ所説ノ如クシカク稀觀ノ事實 ニアラザルヲ知ルベシ,只其ノ沈着ガ直ニ自 内障性變化ト密接ナル因果關係ニアルベキヤ 否ヤハ尚ホ多少研究ノ餘地アリト見ルベキ カ.

水晶體中心部ニ發現スル Smith 及ビ Fischler 氏法陽性物質並ニ皮質ニ於ケル紡錘狀 裂隊内ニ見シ,類脂肪物質ノ主トシテ狹義ノ「リボイード」ニ屬シ「コレステリンエステル」ノ存在稍々少キモノナルコトハ其ノ重屈光性 物質ノ加温ニョリテ溶融シ難キ點並ニ一度ビ溶融セルヤ冷却スルモ著明ニ再現セザル點等ニョリテ略ポ之ヲ證明シ得ベキコトハ前號ニ述ベタル所ナリ.

下等動物ニ於ケル水晶體內類脂肪沈着ハー 般ニ甚幽微ニシテ重屈光性物質ノ發現ハ甚稀 少ナルカ時トシテハ全ク之 ヲ 見ザルモ ノ ア リ.

葡萄膜系統ニ在リテハ類脂肪ノ發現ハ爬蟲類以下ノ動物ニ於テハ甚幽微ニシテ殆ド之ヲ見ザルニ反シ,鳥類及ビ哺乳動物ニ在リテハ殊ニ老年期ノモノニ於テ著明ニ類脂肪ノ沈着ヲ見ル・而シテ人及家鬼ニ於テハ最モ多ク之ヲ毛様突起ニ認ムベシ,脉絡膜硝子膜ニ於ケル脂肪沈着ハ人眼ニ在リテハ老性變化トシテ極メテ著明ニ發來シ殊ニ屢々所謂「ドルーゼ」形成ヲ見ルモ哺乳動物及ビ鳥類ノ1,2ヲ除ケバ殆ド該膜ノ脂肪沈着ヲ見ルコトナク,哺乳動物ニ於テモ其ノ發現遙ニ人限ニ比シ微弱ニシテ,且「ドルーゼ」様肥厚亦甚稀ニ之ヲ認ムルノミ・

鳥類殊二家鶏二於ケル虹彩及ビ毛樣體筋ノ 脂肪沈着ハ特殊ノ所見トシテ著明二發現シ脂 肪沈着ト云ハレショリモ脂肪化ト稱スルヲ寧 ロ至當ト見做スベキ程度ニ在リ. 角膜及ビ掌膜ニ於ケル類脂肪沈着モ亦鳥類及ビ哺乳動物ニ在テハ老性變化ノー分症トシテ現レ角膜ニテハ邊縁板層間及ビ Descemet 氏膜ニ著シク殊ニ人眼及ビ牛ノ眼球ニ著明ナリトス・鞏膜ノ脂肪沈着ハ人及ビ哺乳動物ニ於テ著シク初メハ前部ニ發現シ漸次後方ニ及ビ常ニ內層ニ著シク外層ハ比較的稀薄ナリトス、鳥類以下ノ動物ニ在リテハ鞏膜ノ大部ラ占ムル軟骨ハ「ニルブラウ」ニョリテハ多ク「ヴイオレツト」ニ染ムモ「スダン」III 染色上並ニ重屈光性檢査上「コレステリンエステル」ノ沈着ヲ證明セズ、只鳥類中特殊ノ所見トシテ雀ノ鞏膜軟骨ニ於テ著シク類脂肪殊ニ「コレステリンエステル」ノ沈着ヲ見タリ・

之ヲ要スルニ成熟セル下等動物(主トシテ 爬蟲類以下)ニ在リテハ類脂肪殊ニ「コレス テリンエステル」!出現ハ專ラ網膜ニ著シク 共ノ他ノ部分ニハ基稀ニ之ヲ見ルニ過ギザルニ反シ成熟哺乳動物ニテハ網膜ニ於ケル共ノ 發現ハ彼ニ比スレバ稍々幽後ナルモ尚ホ且多 数ニ於テ著明ニ發現ヲ見,脉絡膜毛樣體等即 チ葡萄膜系統及ビ水晶體並ニ角膜鞏膜等ニ於ケル發現モ亦比較的著明ニシテ而モ其ノ發現 ハ基早期ニ現ハレ1,2ノ部分ヲ除ケバ多クハ 年齢的關係ニヨルモノノ如シ,而シテ成熟鳥類ニ在リテハ恰モ兩者ノ中間ニ位シ,主トシテ網膜ニ著明ニ出現スルト共ニ其ノ他ノ部分ニ於テモ亦可ナリニ其ノ沈着ヲ見ルモノノ如シ.

胎生期間ノ眼球ニ於ケル類脂肪殊ニ「コレステリンエステル」ノ發現ハ前既ニ述ベタル如ク全期ヲ通ジ勿論甚著明ナルモ而モ其ノ最 顕著ナルハ家兎ニ在リテハ胎生第20万至21, 2日ノ頃ニテ、家鶏ニ在リテハ略ポ10日乃至 14,5日前後ナリトス, 之等ノ時期ハ恰モ「エ ンブリオ」ノ最著明ニ分化發育ヲ營爲スルノ 時期ニシテ此期ヲ過グレバ其ノ發育一時其ノ 度ヲ減ジ,更ニ家兎ニ在リテハ分娩直前ニ至 リテ再ビ發育ヲ促進ス, 而シテ分娩又ハ破穀 ト共ニ各種臓器器官ノ俄然生理的作用ノ亢進 ヲ來スト共ニ其ノ期間ニ於ケル「コレステリ ンエステル」ノ發現ノ旺盛ナルベキハ見易キ ノ事實ナルベク恰モ「コレステリンエステル」 ノ出現ノ消長ハ略ポ之等器官ノ發育分化ノ狀 況ト常ニ相-致セル或ルモノノ存スルラ見ル ベシ旣ニシテ個體ノ發育略ポ完了スルニ及べ バ此物質ノ發現亦漸ク稀少トナリ更ニ年齢ヲ 加フルニ至リテハ故ニ老性變化トシテ再ビ此 物質ノ沈着ヲ見ルニ至リ、卽チ一方退行性變

化トシテノ「コレステリンエステル」/ 發現作 用スルト共ニ他方代賞性修復性變化トシテ組 織細胞ノ増殖ヲ來スハ屋々目撃セラレタル事 實ナリトス.

斯ノ如ク眼球ニ於ケル類脂肪殊ニ「コレステリンエステル」ノ發現ハ個體發生學並ニ種 屬發生學ノ2方面ヨリ觀察シテ其ノ間自ラー 定ノ規律ノ存在セルヲ知ルニ足ルベク, 更ニ 個體及ビ種屬發生ノ相互間ニ於テモ亦互二共 通セル或者ノ存在ヲ認ムルノ必ズシモ牽强附 會ニアラザルヲ知ルニ足ルベキカ.

> 並ニ本編ノ稿ヲ完了スルニ當リ終始懇篤ナル 指導ヲ腸ハリシ中院博士及ビ毎編局到ナル校 関ヲ忝フセシ畑教授ニ對シ重ネテ滿腔ノ謝意 ト深萬ナル敬意ヲ表ス.

引用書目

V. Franz, P., Sehorgan, Lchrbuch d. vergl. mikrosc, Anatom. d. Wirbeltiere, 1913.
 Pütter, Organologie des Auges; Graefe-Saemisch, Handbuch d. gesam. Augenheilk 3.
 Auflage. 3) Greeff, R., Mikroseop. Amatomie

d. Schnerven u. d. Netzhaut. Graefe-Saemisch, Handbuch d. gesamm. Augenheilk 2. Auflage. 4) 松浦堯,岡賢維,第44年,第6號. 5) 谷津 直秀,動物分類表.

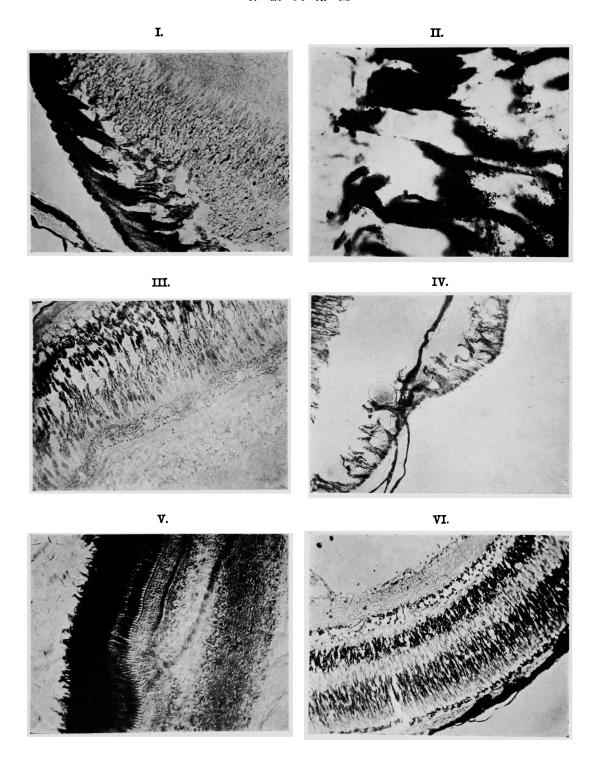
附圖說明

- I. 鮒網族色素上皮細胞及ビ其ノ突起ノ内外 ニ於ケル油球ラ示ス
- Ⅱ. 同上擴大圖

z

- III. 鯉ノ網膜ノ微細構造 (Ciaccio 法ニヨル)
- IV. 同上網膜色素上皮細胞ノ油球
- ▼. 鯛ノ網膜微細構造特ニ圓錐體ノ配列ヲ示ス
- VI. 鰻網膜ノ微細構造主トシテ血管斷面ヲ示
- VIII. 鯛網膜ノ重屈光性「リポイード」
 - IX. 鰻網膜ノ同上物質
 - X. 鯖網膜ノ同上物質
 - XI. 鯉網膜ノ同上物質

森論文附圖



森論文附圖

